

# 2013年度経営プラン Q1フォロー

2013年7月  
古河電気工業株式会社

取締役 財務・調達本部長  
櫻 日出雄

## 情報通信・軽金属事業の回復で増収・増益

✓ 営業利益 **+44%増** (37億円⇒53億円)

✓ 経常利益 **+91%増** (36億円⇒68億円)

✓ 当期純利益 **2.4倍** (6億円⇒13億円)

1. P&L、B/S 説明
2. 売上高・営業利益増減分析
3. セグメント別分析
4. 今期の取り組み
5. 業績予想

## 13Q1 P&amp;L

(単位:億円)

P&L	12Q1	13Q1	増減	増減要因
	a	b	b-a	
売上高	2,229	2,368	+140	特殊要因(P.6参照)
			+6.3%	
営業利益	37	53	+16	特殊要因(P.7参照)
			+44.0%	
経常利益	36	68	+33	為替差益+9(4⇒13)、 持分法利益+3(1⇒4)など
			+91.2%	
特別損益	-5	-34	-29	古河スカイ(土地等)減損-24.5 など
法人税等・調整額	-19	-17	+2	
少数株主損益	-6	-3	+2	
当期純利益	6	13	+8	
			2.4倍	

(注)損益上マイナスの項目には-をつけました

## 13Q1末B/S

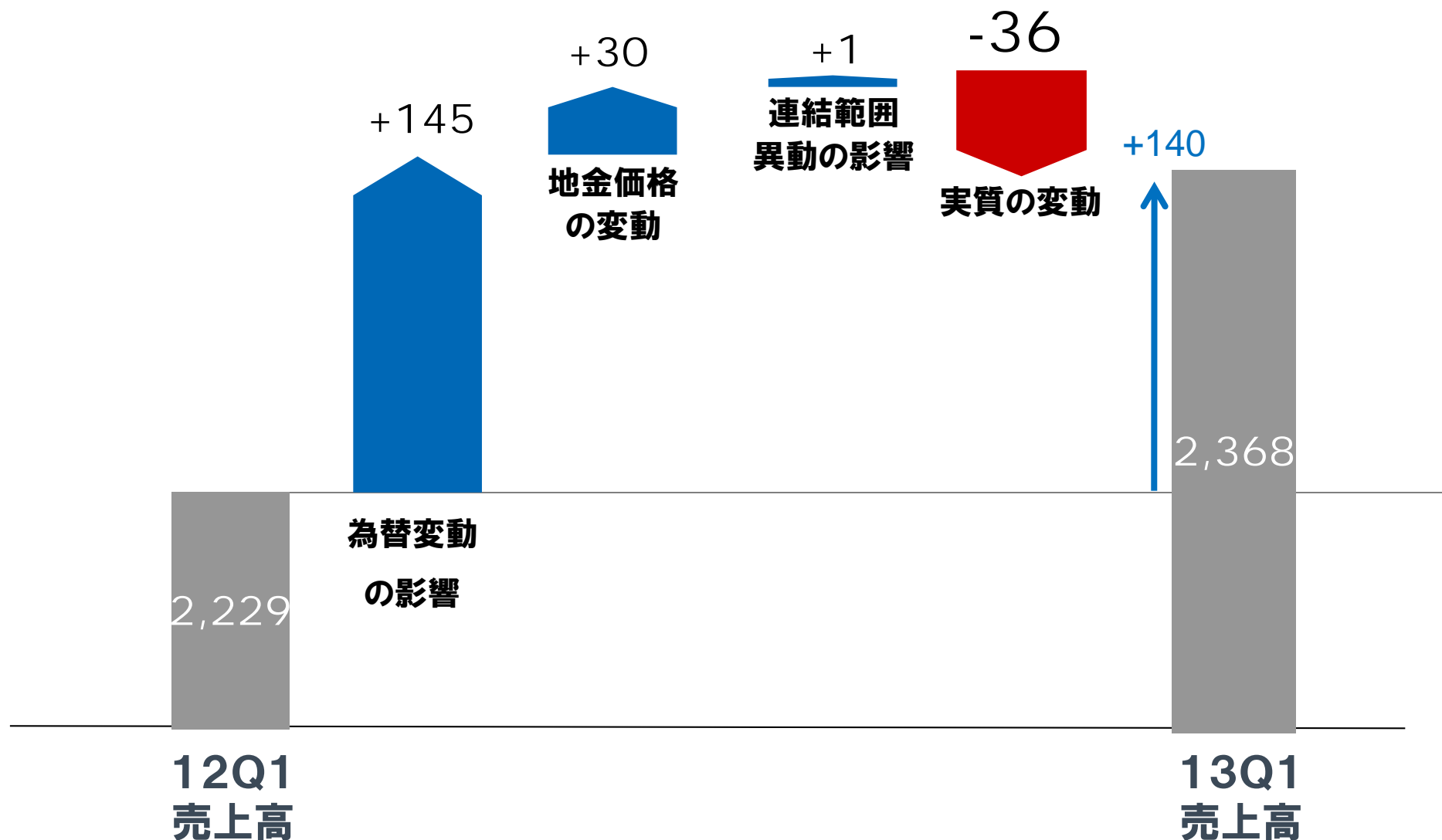
(総資産、有利子負債の単位:億円)

B/S	12Q4末	13Q1末	増減
	a	b	b-a
総資産	8,197	8,784	+587
有利子負債	3,205	3,627	+422*
自己資本比率	20.2%	19.8%	-0.4
D/Eレシオ	1.93	2.08	+0.15
総資産回転率 (年換算売上高/総資産)	1.13	1.08	-0.05
ROA (年換算経常利益/総資産)	2.1%	3.1%	+1.0

**\*有利子負債増加について** 低金利下での前倒し調達を行ったために増加した現預金・現先、及び円安影響・新規連結による増加を除いた有利子負債の実質増加額は220億円強。その主な要因は、棚卸資産などの運転資金の増加。

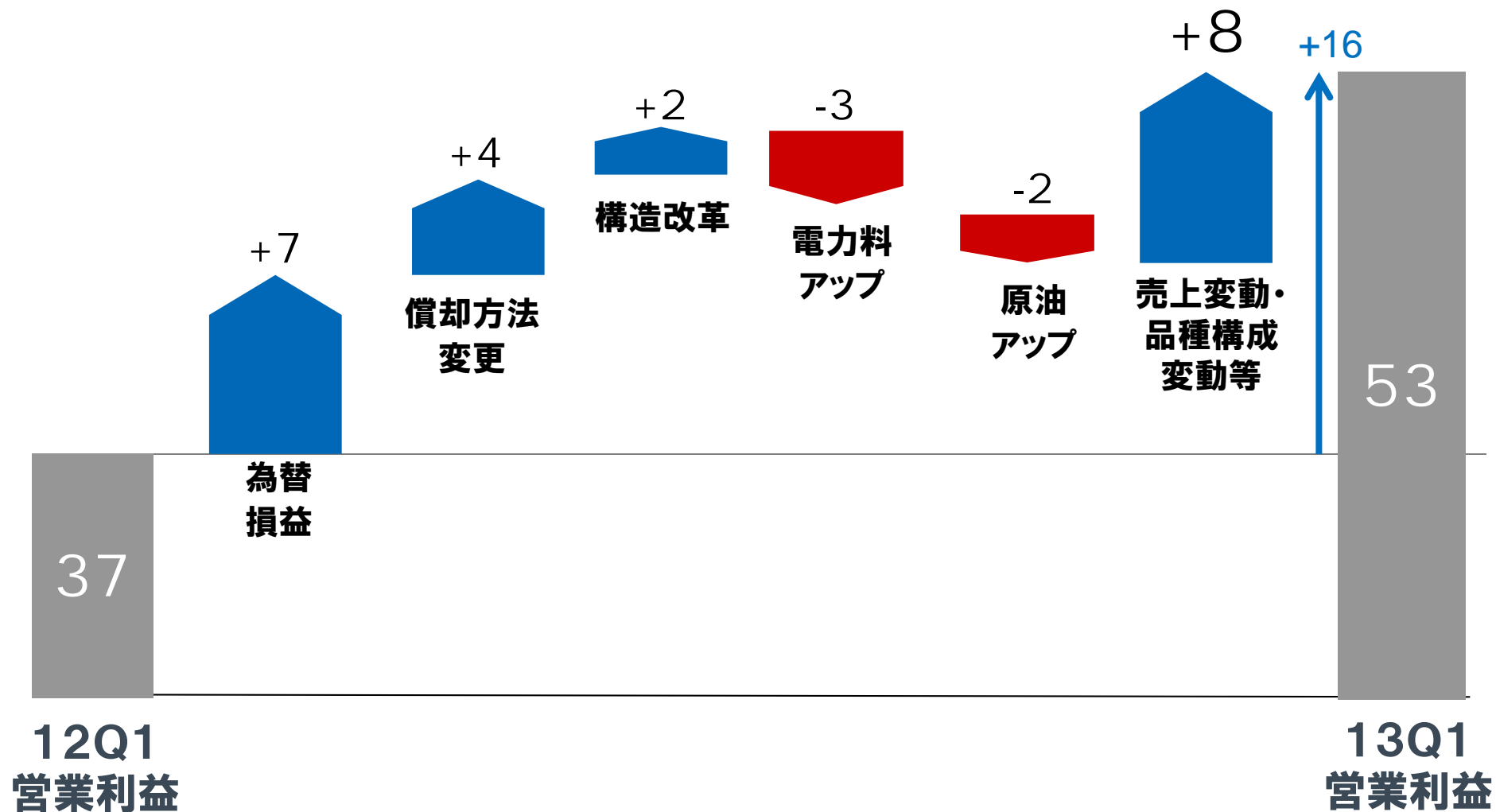
# 13Q1 売上高増減分析

(単位:億円)



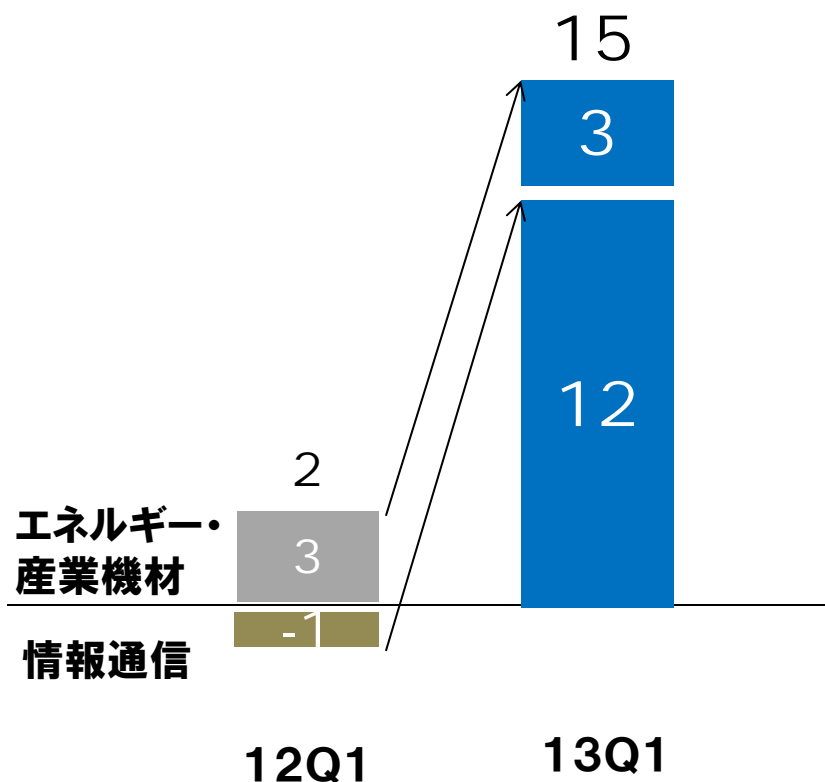
# 13Q1 営業利益増減分析

(単位:億円)



# セグメント別営業利益推移(前年同期比)

伝送インフラ系: 2⇒15(+14)



(単位:億円)

## 【情報通信】 -1⇒12(+13)

### ●光ファイバ・ケーブル 5⇒8(+3)

- (+)円安とコストダウンにより国内ファイバの採算が改善、南米のケーブル需要が回復
- (-)通信プロジェクトの一巡などにより欧米の需要が低迷、中国で在庫調整

### ●フォトニクス・ネットワーク -7⇒4(+10)

- (+)国内ブロードバンド関連の需要が好調、タイ3G携帯電話工事の需要が好調

## 【エネルギー・産業機材】 3⇒3(+0)

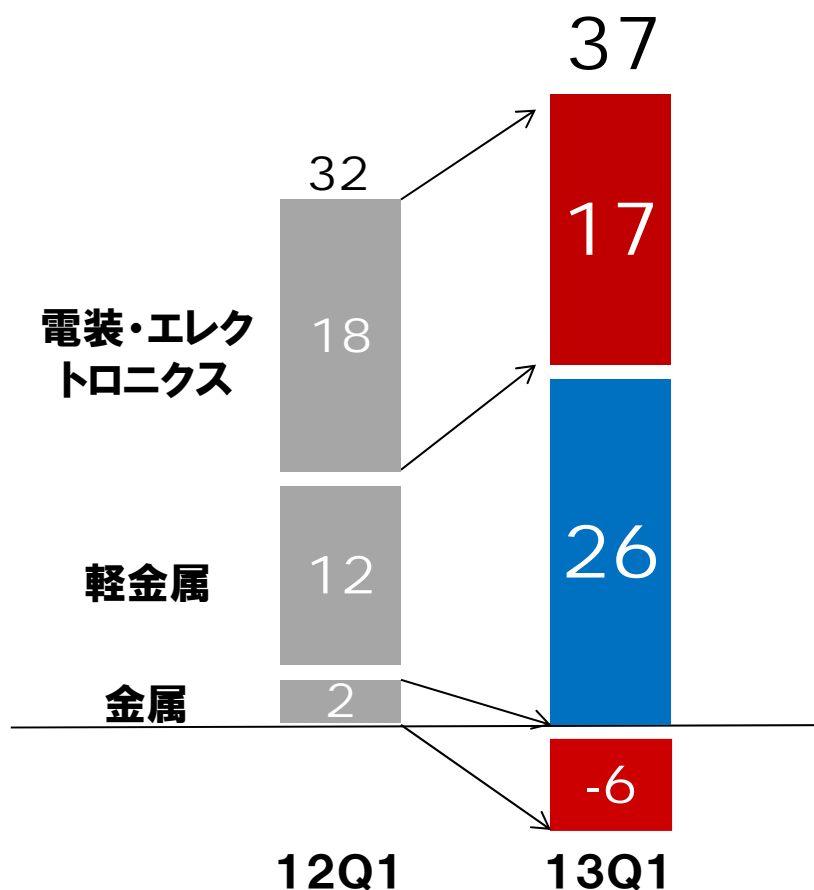
- (+)スマホ・タブレット向け半導体製造用テープやメガソーラー向け管路材の需要が好調
- (-)国内の電力ケーブルやLED液晶TV用MCPETの需要が低迷



# セグメント別営業利益推移(前年同期比)

(単位:億円)

高機能素材系:32⇒37(+5)



**【電装・エレクトロニクス】 18⇒17(-1)**

(-)自動車部品:エコカー補助金切れによる既存車種の減を新規採用車種でカバーするも、円安による輸入採算が悪化

(+)ハードディスク用メモリーディスク材の需要が好調

**【金属】 2⇒-6(-9)**

(-)リードフレーム用銅条や自動車向けリチウムイオン電池用銅箔の需要が伸び悩み

(+)エアコン用銅管の需要が好調

**【軽金属】 12⇒26(+14)**

(+)コストダウンや棚卸評価関係などの効果

(-)全般的に売上数量が減少

# 主な事業構造改革案件の状況

案件	完了時期	状況
電力部品 事業統合 (旭電機/井上製作所/古河PC ⇒ 統合会社)	12年10月	完了
産業電線 海外OEM (採算の厳しい製品を海外OEM)	12年12月	
巻線 海外生産 (TEX:当社三重 ⇒ 東南アジア関係会社)	12年12月 ← 13年3月	
東特 規模縮小 (事業分離による規模縮小に伴う人員削減)	13年 3月	
電力部品 事業統合 (統合会社/当社電力部品部門⇒統合会社)	13年 4月	
電線販売 機能統合 (新満電 ⇒ 古河エレコム)	13年 4月	
光ケーブル 生産統合 (三重/千葉 ⇒ 三重)	13年 6月 ⇒ <b>13年10月</b>	
銅箔 海外生産 (当社今市の一部⇒台湾関係会社)	13年 9月	
導電材 生産統合 (当社三重/千葉 ⇒ 三重)	13年12月 ← 14年3月	
本部部門 効率化 (既存機能を20%削減⇒グループ経営強化)	13年12月	
巻線 不採算品撤退 (汎用太物エナメル:一部撤退)	14年 3月	

**国内光ケーブル生産繁忙のため  
統合を10月に延期**

# インフラ/自動車のグローバル商圏を拡大

## 《情報通信》

「光ケーブル拠点拡充、成長市場へ拡販」

## 《エネルギー》

「パートナー連携＋技術優位性生かし海外展開を強化」

### ブラジルFISA

- ・コロンビアに光ケーブル製販子会社を設立、14年2月操業開始予定（7月30日発表）
- ・ブラジルで光ケーブルの能力増強（5月9日発表）
- ・ブラジルでOPGWを本格生産開始（3月13日発表）

### タイTFU

- ・タイで急増している3G携帯工事に対応

### インドネシアFOSI

- ・今後インドネシアのFTTHに光ケーブル供給

### インドネシアTMS

- ・インドネシアで拡大する銅線需要に対応

## 《自動車部品》

「ワイヤーハーネスはグローバル日系・新興国ローカルメーカーへ拡販」

### 古河AS

- ・メキシコに2社目のハーネス会社設立、14年1月操業開始予定（4月30日発表）
- ・フィリピンにハーネス新工場建設、14年1月操業開始予定（5月21日発表）
- ・上海に中国地域統括会社を7月に設立
- ・タイに「アセアン＋インド」の地域統括会社を設置予定

# 海外売上高比率も拡大

(単位:億円)

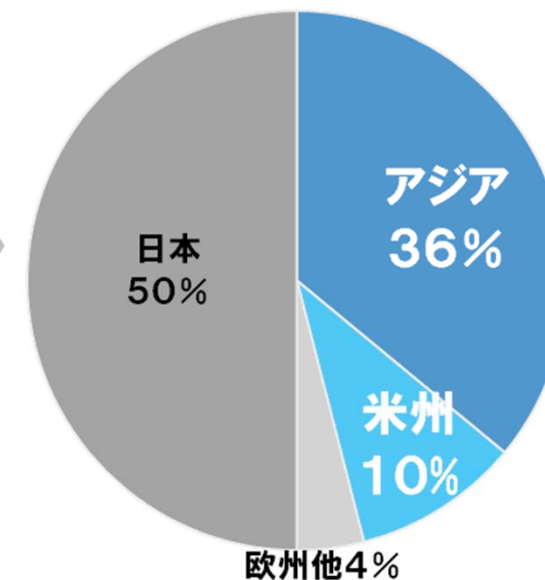
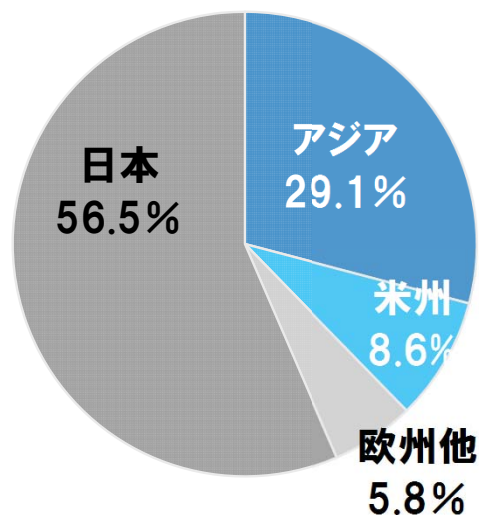
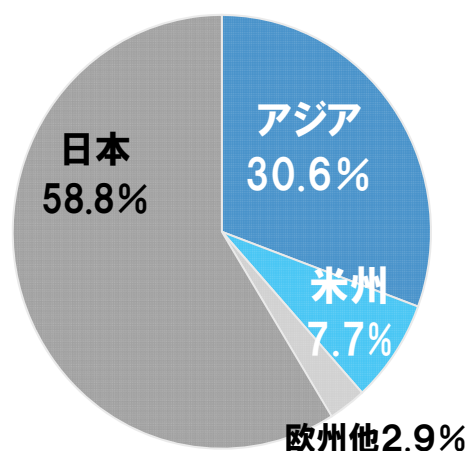
## 13Q1で43.5%(除く軽金属) 前年同期の41.2%から拡大

12Q1実績  
海外740/  
全体1,796  
=41.2%

海外売上高  
+14%アップ

13Q1実績  
海外844/  
全体1,938  
=43.5%

15計画  
海外4,500/  
全体9,000  
=50%



## 業績予想は据置き

	12年度 実績(A)	13年度 予想(B)	上期予想	下期予想	増減 (B-A)
売上高	9,247	9,400	5,000	4,400	+153
営業利益	178	250	115	135	+72
経常利益	176	240	105	135	+64
当期利益	36	50	15	35	+14
諸元					
為替レート(円/ ドル)	79.8	95	→	→	+15.2
銅建値(円/kg)	696.4	700	→	→	+3.6
ドバイ原油(ドル /バレル)	107	108	→	→	+1

ご清聴ありがとうございました。

*Bound to*  *Innovate*

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社